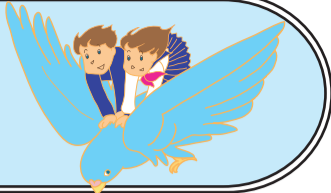


君とつばさ



平成24年1月1日発行
 発行・公益財団法人 交通遺児育英会
 〒102- 東京都千代田区平河町2 6 1
 0093 (電話) 0 3(3 5 5 6) 0 7 7 1
 (HP) http://www.kotsuji.com

©交通遺児育英会

事業計画 着実に達成

23年度上期事業報告

公益財団法人交通遺児育英会は昨年11月30日、第2回通常理事会を開き、上期事業報告と正味財産増減決算報告(年度予想ベース)を行った。公益財団法人に移行して初めてとなる上期は、各事業を計画に沿って着実に実施した。



23年度上期事業報告を行った通常理事会

【事業報告】
 ▼奨学生の採用
 上期に新たに採用した奨学生は、前年同期に比べて高校、大学生が減ったため、全体で75人減の495人だった。継続奨学生は、同56人増の1085人。奨学生の総数は、同19人減の1580人となった。このため、奨学金の総額は、同2600万円減って4億2200万円となった。
 入学一時金を利用したのは、前年とほぼ同数の252人で、貸与額は1億5400万円。また、奨学金と一時金を合わせた貸与総額は5億7600万円、同1500万円減となった。

▼奨学金の返還
 奨学金と入学一時金を合わせた回収額は、4億5400万円、返還率は86・42%となった。上期に返還猶予を認めた967人のうち、44人が東日本大震災の被災者だった。

▼奨学生に対する指導
 高校奨学生と保護者が集まる「つどい」を、8月19〜21日に中国・四国・九州地区を対象に行い、40家族105人が参加した。「相談会」を年度計画5都市のうち、上期は静岡、仙台両市で開き、参加率ともに18%だった。

▼募金活動
 上期の寄付金は8700万円。大口寄付が減っていること、震災の影響などから、件数、金額とも伸び悩み傾向が続いた。

▼第2次長期事業計画の推進状況
 5年計画の最終年度となる今年度は、上期に公益法人化を滞りなく達成した。平成20年度から始まった、旧運輸省からの自動車事故対策補助金の返納は、今年度も10月に1億4000万円を返還した。

海外語学研修 第9期生を募集

3面参照

資金ベースから損益ベースに変更された。一般正味財産では、財産運用収益1億7200万円・受取寄付金1億9200万円(大口寄付の減少で前年比で1億3500万円減)などにより、経常収益が3億8700万円と見込まれている。

【年度予想ベース】
 今年度から公益財団法人に移行したのに伴い、新たな公益財団法人会計基準が適用された。このため、従来の赤字。

つどい 1泊2日に短縮 全国一括開催 講演・懇談中心に

交通遺児育英会の夏のイベント「高校奨学生と保護者のつどい」を、平成24年度から1泊2日に短縮する。昨年11月の理事会で決定した。

「微睡眠」

油彩・カンバス



愛知県立芸術大学 3年

白井 弓子

合わせて、全国3プロットに分けて年度ごとに交代で開催していたのを、3地域を一括して対象とするようになった。高奨生の応募は、これまで3年間に1回限りだったが、毎年応募できることになる。ただし、参加できるのはこれまでと同じく3年間で1回限り。この変更により、24年度は8月4〜5日に、千葉市幕張で実施する。日程短縮に伴い、プログラムも一部変更し、初日に講演会と、奨学生・保護者がグループに分かれての懇談会を行う。2日目は自由行動となり、希望者には心塾東京寮の見学会を用意する。

TDL観光取りやめ

この結果、東京ディスプレイランドへの観光も、行わないことになった。

孫がかわいい、とお年寄りがよく目を細める。「孫というのは、子どもよりずっと含蓄がある。……子は、自分の人生にも意味があったと何となく感じさせてくれるが、孫は、それを確信させてくれる。(スウェーデンの作家、ヘニング・マンゲル Henning Mankell 厄介者) ▼1年前、街角で、ママに抱かれた赤ちゃんや、パパに手を引かれた子を、じっと見つめた。命が、親から子へ、子から孫へとつながら重みを、ふだん以上にかみしめたかった。「いないないばあ」で和む、あふれた日常があったかかった▼2011年、何万もの命のつながりが、一瞬のうちに断ち切られるのを見た。すかさず、全国から、世界から、献身的な支援が届く。つながりは、地球を一回りした▼仙台市での本会の相談会に来られたのは、被災家族だった。学業継続すらままならないという。別の会場では、引きこもりがちの子を案ずる相談も。細い糸のようなつながりを求める声は、ともに切実だった▼足元を見ると、講演やもちつきに取り組んだ心塾の寮生、太鼓打ちの高校生、医療支援者を指す大学生、味を究める板前――。こちらからは、地域や未来へつながろうとする力強さがうかがえた。涙の11年が、希望の12年につながることを祈る元日。

年頭に寄せて



読書の薦め

公益財団法人 交通遺児育英会 会長 清水 司

奨学生の皆さま、あしながおじさんを始めて支援くださっている皆さま、明けましておめでとございます。皆さまにとってよき新年でありますように、お祈り申し上げます。先日読んだ本で、吉田兼好の徒然草に「独り燈の下に書を広げて、見ぬ世の人を友とする」とある。こような慰むわざなり」との言葉があり、同じくテカトルが「あらゆる良い、書物を読むことはその作者であった過去の世紀の有徳の士と会話を交わすような

ものである」と言っていることを知りました。短い人生で、しかも我々の多くは限られた世界で過ごすのですから、現身の友との交わりはたかが知れています。そこで兼好法師やテカトルにならば、書物を友にしよとすれば、世には万巻の書物があふれているのですから、身近に多くの友や師を求めることができます。

専門分野はさておき、書物には、情懷を刺激して感受性のみずみずしさを保たせ養う

もの、知的、芸術的感性に働かす創造的インスピレーションを喚起するもの、事実、歴史、科学的真実を明らかにしてくれるものなどさまざまに分野があります。これらの読書により、私たちは言葉を知り、言葉で思考し、自身を形成することができます。その言葉以上の思考はできないのですから、読書により多くの言葉を知らなくてはなりません。

このように書物の効用にはいろいろな側面と、その側面ごとの価値と、それらを総合

した価値がありますが、ここでは今の世相で大事と考える読書の一面について、その効用をラビールしてみます。

今の世の中、新聞、テレビ、ネットなどの情報には、質の悪いものが多々あるように見受けられます。それはこれら情報に、資本や政治の論理に制約を受け、ゆがめられるからです。ジャンク・フードという言葉になぞらえれば、巷には多くのジャンク・メディアから多くのジャンク・インフォメーションが垂

れ流されていると思います。このジャンクの海から私たちを救ってくれるのが書物です。ノンフィクション分野で多くの良心的ライターが、少しでも真実に近づこうと長い時間をかけて取材し、本を出します。このような本によって、私たちはより一歩真実に近づき、より正しい判断ができるようになりますし、これからはこのような本の助けを借りなければ正しい判断ができないケースが増えるのではないのでしょうか。

奨学生の皆さまが、少しでも多く価値ある読書に時間をかけるように期待しています。あしながおじさんの皆さまには、このような奨学生に倍旧のご支援を宜しくお願いいたします。

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として 助成を受け作成されたものです。



